

◆令和8年度第1回幼保小接続推進研修会◆

◆令和7・8年度鳥取県幼保小の架け橋プログラム推進事業（令和8年度事業）研修会◆

鳥取県の幼保小連携・接続の 現状及び方向性



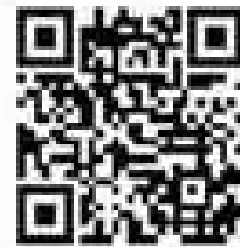
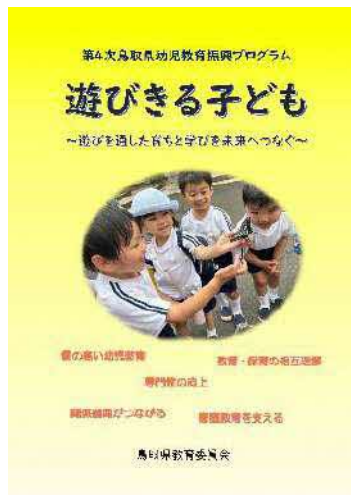
令和8年7月28日（火）

本日の内容

- 1 鳥取県の幼保小連携・接続の考え方
- 2 鳥取県の幼保小連携・接続の現状及び方向性
- 3 鳥取県の幼保小連携・接続の今後に向けて

第4次鳥取県幼児教育振興プログラム

鳥取県架け橋期のカリキュラムの検討・開発のポイント



鳥取県幼児教育センター
ホームページ

鳥取県の幼保小連携・接続の考え方

第4次鳥取県幼児教育振興プログラム全体像

鳥取県では、鳥取県に誇りと愛着を持ち、自分らしい生活力を表現することにも、様々な場面であるさと機転をきいていくことができる人材を育成する「ふるさとキャリア教育」をすべての教育現場の基盤として推進します。

鳥取県教育振興基本計画（令和6年度～10年度）
～未来を拓く教育プラン～
基本理念 自立して心豊かに 幸せな未来を創造する
ふるさとととりの人づくり

p. 1、2



＜鳥取県教育振興基本計画＞2（6）幼児教育の充実
鳥取県幼児教育センター、市町村、園・小学校の連携・協力による発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の推進

第4次鳥取県幼児教育振興プログラム

めざす子どもの姿 遊びきる子ども

＜「遊びきる子ども」を育むための取組＞

学びの基礎づくり

豊かな人間性の醸成

健康な体づくり

推進の柱	基本方針
1 幼児教育の質の向上	(1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に沿った幼児教育の展開 (2) 幼児教育における環境の充実 (3) 特別な配慮を必要とする子どもへの教育の推進
2 保育者の資質・能力の向上	(1) 研修体制の整備 (2) 研修内容の充実
3 小学校教育との連携・接続推進	(1) 連携の体制づくり (2) 架け橋期の教育の充実
4 子育て・親育ち支援の充実	(1) 「親と子の育ちの場」の充実 (2) 子育て・家庭教育支援体制の充実 (3) 地域における園のセンター的機能の整備
5 地域とともにある幼児教育の推進	(1) 幼児教育・保育施設と関係組織の連携・協働 (2) 地域とともにある園づくりの推進

遊びたい(意欲)

(自ら)遊びだす

十分に遊びこむ

遊びきる

p. 11

このような遊びの繰り返しが、
非認知能力等、
学びの土台となる力を育む

3 小学校教育との連携・接続推進

基本方針（1）連携の体制づくり

- 目標① 持続可能な連携の体制づくり
～組織をつなぐ～
- 目標② 連携・交流の推進
～人をつなぐ～

基本方針（2）架け橋期の教育の充実

- 目標① 架け橋期のカリキュラムへの発展
～教育をつなぐ～
- 目標② 幼保小の協働による架け橋期の教育の充実

乳幼児

小学生

教職員等

地域・社会

- ・AI等、技術革新のさらなる進展
- ・インターネットの急速な普及

- ・ICT機器使用の低年齢化

- ・子どもが自然の中で体験活動をする機会の減少

- ・「こどもまんなか社会」の実現に向けた「こども家庭庁」の発足
- ・「こども基本法」の施行

- ・架け橋期（5歳児から小学校1年生の2年間）の教育の充実

- ・保育現場の人材不足
- ・保育人材の養成、確保及び定着

- ・少子・高齢化の進行や個人それぞれの価値観、ライフスタイルの多様化を背景にした地域コミュニティの弱体化

鳥取県の特徴

- ・年度当初待機児童数ゼロ、小児医療費の完全無償化（18歳以下）等、子育て環境が整いつつある。
- ・保育所等利用率が高い。
- ・一時預かりや病児・病後児保育等の保育環境の充実が求められる。

背景

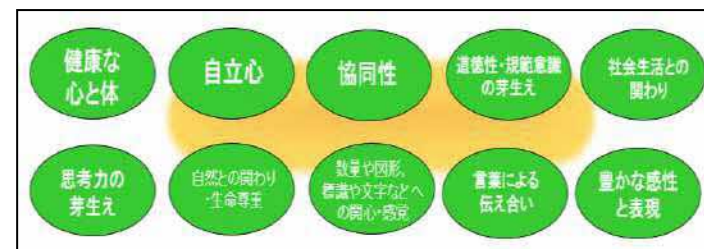
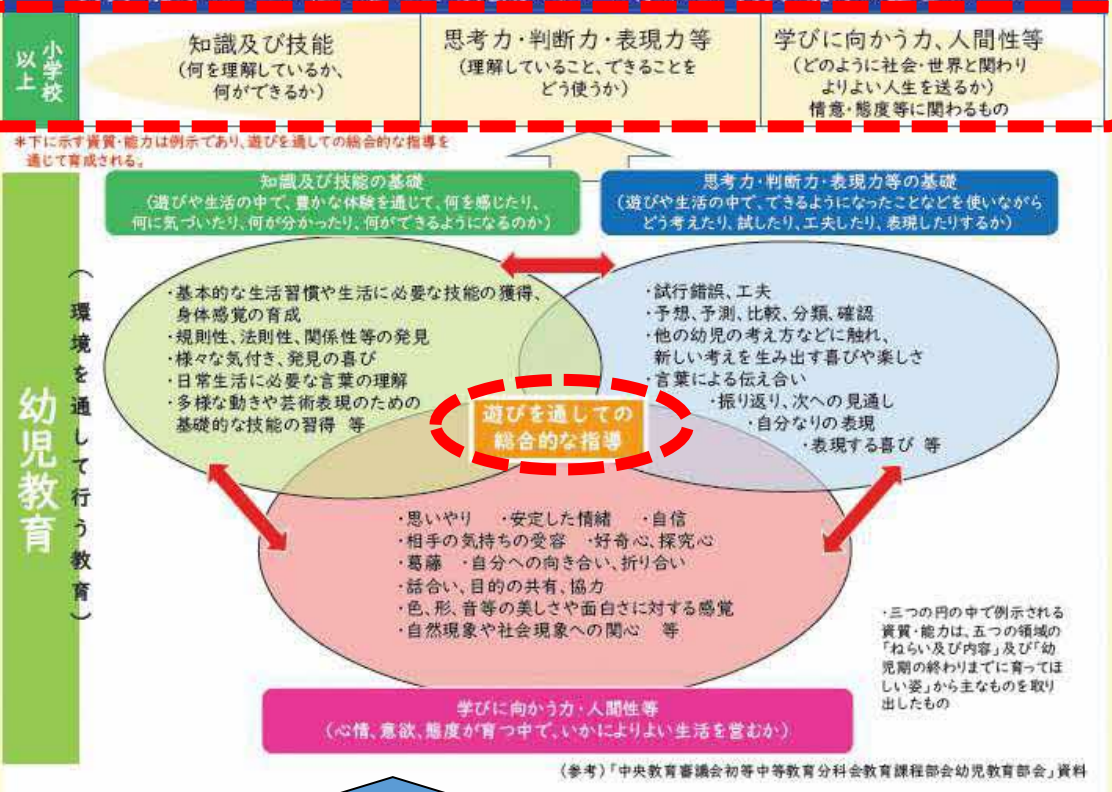
鳥取県の幼保小連携・接続の考え方

p. 13、14

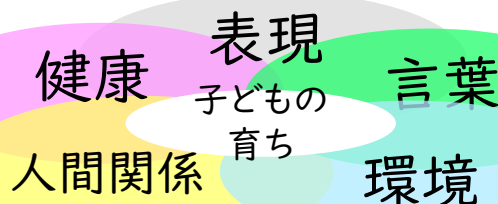
「遊び」を通して育まれた **主体性**、身に付けた **資質・能力** を
小学校以降の学習や生活につなぎましょう！



資質・能力の三つの柱に沿った、幼児期において育みたい資質・能力の整理イメージ



資質・能力が育っていくと、幼児期の姿(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿)としてあらわれてくる。



5領域のねらい・内容に基づく保育活動全体を通して資質・能力は育まれていく。

資料1

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて

健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。



協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。



道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくり、守ったりするようになる。



社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。



思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。



園で

一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくり、必要な援助を行ったりする。

小学校等で

幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが各教科等の学習に円滑に接続されるよう、指導の工夫を行う。

幼児期の遊びの中の「学び」は見えにくいと言われています。幼児期の「学び」の姿の可視化を図り、園と小学校等の教職員との連携や、地域・家庭等との連携のための手段のひとつとして「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」が示されました。園も小学校等もこの子どもの姿を手がかりにして、**子どもの育ちを捉え、語り合い、共有しながら、教育・保育活動に取り組むことが求められています。**

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の意をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」は、幼児期において育みたい資質・能力が育まれている園児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られる姿です。また、園において、発達段階に応じて、それぞれの時期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより見られる姿であり、同時に小学校教育の始まる姿です。

<留意点> ★方向目標であり、到達目標ではない。

★一つずつ取り出して指導したり、評価したりするものではない。

★全ての子どもに同じように見られるものではない。

※小学校等…小学校・義務教育学校・特別支援学校を総称しています。

5歳児後半の姿であると同時に**小学校の始まる姿**でもあります。この姿を幼保小双方が子どもの**育ちを捉える手掛かり**として共有していくことが重要です。

I 鳥取県の幼保小連携・接続の考え方

幼保小の架け橋プログラム

子供に関わる大人が**立場の違いを越えて自分事として連携・協働**し、この時期にふさわしい**主体的・対話的で深い学びの実現**を図り、一人一人の多様性に配慮した上で**全ての子供に学びや生活の基盤**を育めるようにすることを目指すもの

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版) 令和4年3月31日 文部科学省

架け橋期

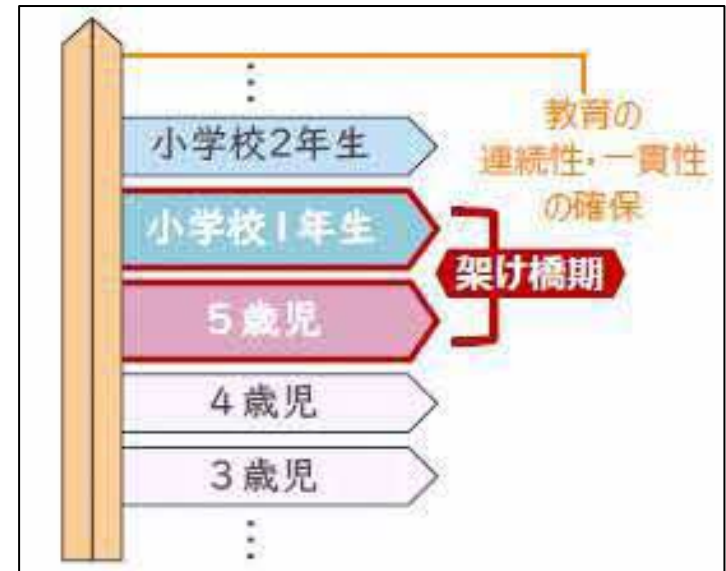
生涯にわたる学びや生活の基盤
をつくるために重要な時期

教育内容や方法を工夫する
ことが重要

幼保小の接続の改善ポイント

p.61

	これまで	これから
目的	小学校への順応	学びの連続
内容	交流活動	カリキュラム編成
期間	数か月	2年
実施単位	施設単位	地域単位



架け橋期のカリキュラムを
協働して作成、実施、評価、改善

幼児教育推進体制等を活用した幼児教育の質の向上及び小学校教育との円滑な接続

子供に関わる全ての関係者が
立場を越えて連携・協働

地域で一体となって幼児教育施設と小学校の接続を進めるためには、**教育委員会**が主導的な役割を發揮することが必要

架け橋期の
コーディネーター

幼児教育
アドバイザー

「幼保小の架け橋プログラム」の推進

幼児教育と小学校教育の円滑な接続
幼保小の相互理解、連携・協働



教育委員会



保健・福祉担当部局

連携

幼児教育センター



幼稚園



認定こども園



保育所

設置者や施設類型を問わず、家庭や地域の状況にかかわらず、全ての子供に格差なく質の高い学びを保障

“架け橋期のカリキュラム”

- の策定・実施・改善等を通して
- 0歳～18歳の学びの連続性
- 教育の連続性・一貫性の確保

保護者や地域住民の参画
社会に開かれたカリキュラム

架け橋期のコーディネーター
(兼) 幼児教育アドバイザー

地域一体で幼児教育の質を高め合う体制作り

Ⅰ 鳥取県の幼保小連携・接続の考え方

幼保小の円滑な接続をめざす 3つの「つなぐ」

幼稚園
認定こども園
保育所等



小学校等

組織を
つなぐ

人を
つなぐ

教育を
つなぐ

連携

接続

園・小学校等、市町村保育担当課と
教育委員会がつながる

園児・児童・教職員・保護者
市町村担当者等がつながる

教育課程等のカリキュラム・
教育内容がつながる

2 鳥取県の幼保小連携・接続の現状及び方向性

組織を
つなぐ

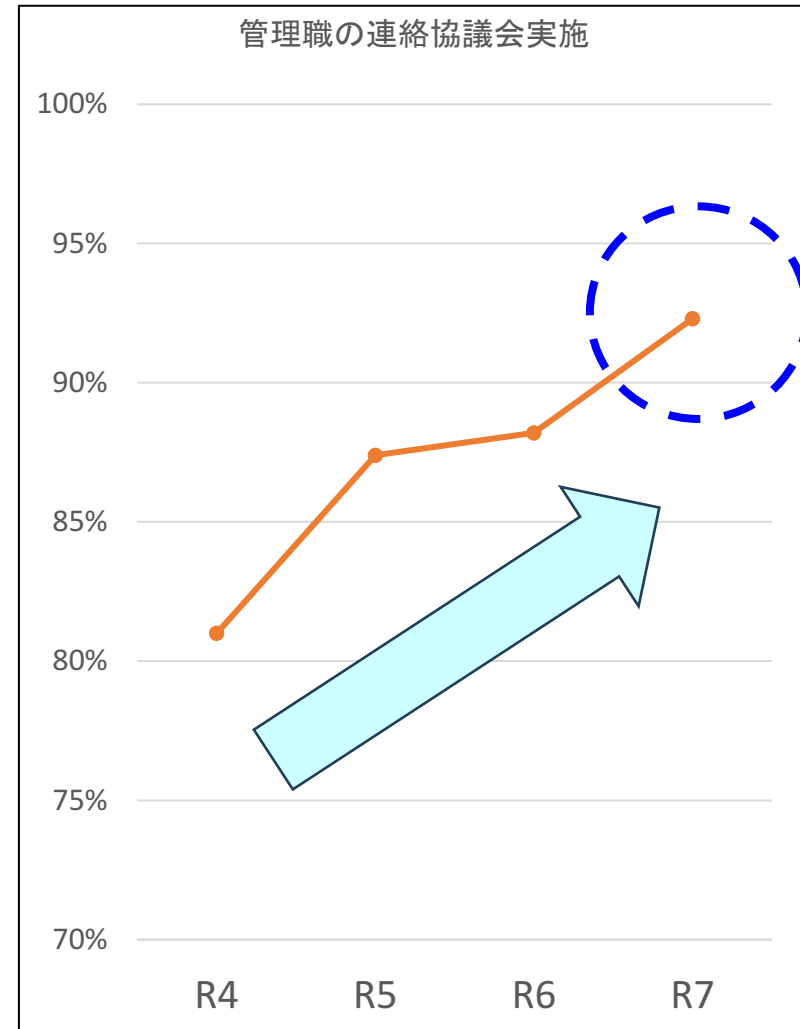
園等の管理職との連絡協議会の実施

	R4	R5	R6	R7
県全体	81.0%	87.4%	88.2%	92.3%

学校教育実施状況調査(小学校)

連絡協議会の
充実と定着

管理職の
リーダーシップ



組織を
つなぐ

p.55、56

持続可能な連携の体制づくり

子どもに関わる**全ての関係者**が、立場の違いを越えて、**子どもの姿を中心に対話**しながら、架け橋期の教育を充実できるように、持続可能な連携の体制づくりに努めます。

連絡協議会



年に数回、園長・校長が集まり、校区の円滑な接続に向けて、めざす子どもの姿やカリキュラム等について話しています。

連絡会



1年生の授業参観、講演会後の連絡会では、子どもの姿や幼保小連携・接続について意見交換等をしています。

幼児期に育んだ資質・能力を小学校に伝える

相互理解

双方が大切にしている教育・保育内容や指導方法等について語り合う

2 鳥取県の幼保小連携・接続の現状及び方向性

人を
つなぐ

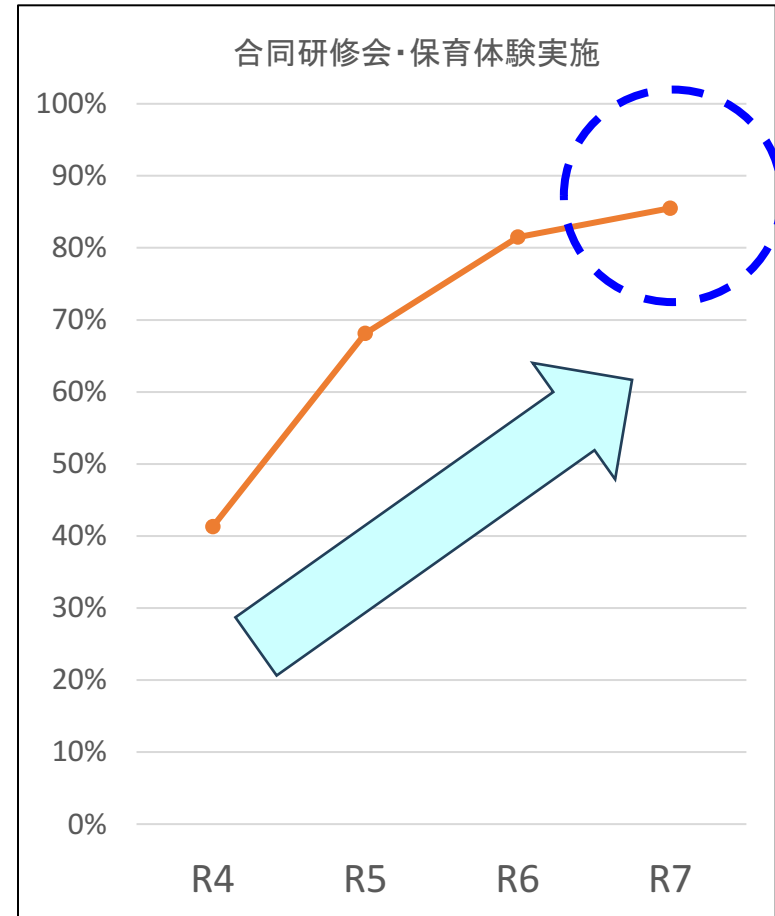
合同研修会・保育体験等の実施

	R4	R5	R6	R7
県全体	41.3%	68.1%	81.5%	85.5%

学校教育実施状況調査(小学校)

事前・事後の
協議の充実

教職員等の
相互理解



人を
つなぐ

連携・交流の推進

p.57、58

「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を手掛かりに、子どもの育ち（姿）を語り合ったり、互いの教育内容や指導方法の理解を深められたりするように、教職員等の連携・交流の充実に努めます。

授業参観

保育体験・
保育参観

互恵性の
ある交流

合同研修会



人を
つなぐ

教育を
つなぐ

参観

生活科の授業・連絡会

子どもたちが話し合う
姿や字が書けるようにな
った姿を園の先生方に見
てもらえるように、工夫し
て授業をしようかな。

「幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿」に照らし
て子どもたちの育ち（姿）
をメモしておこう。

対話

ワークシートにひらがなを書いた
り、絵を描いたりして、一生懸命がん
ばって学習していたな。（数量や図形、
標識や文字などへの関心・感覚）

友達の発表を
聞いて、園での経
験や自分の経験
と結び付けて考
えていたな。（社
会生活との関わ
り）

1年生活科の授業の様子

園の先生

授業後の連絡会の様子

2 鳥取県の幼保小連携・接続の現状及び方向性

教育を
つなぐ

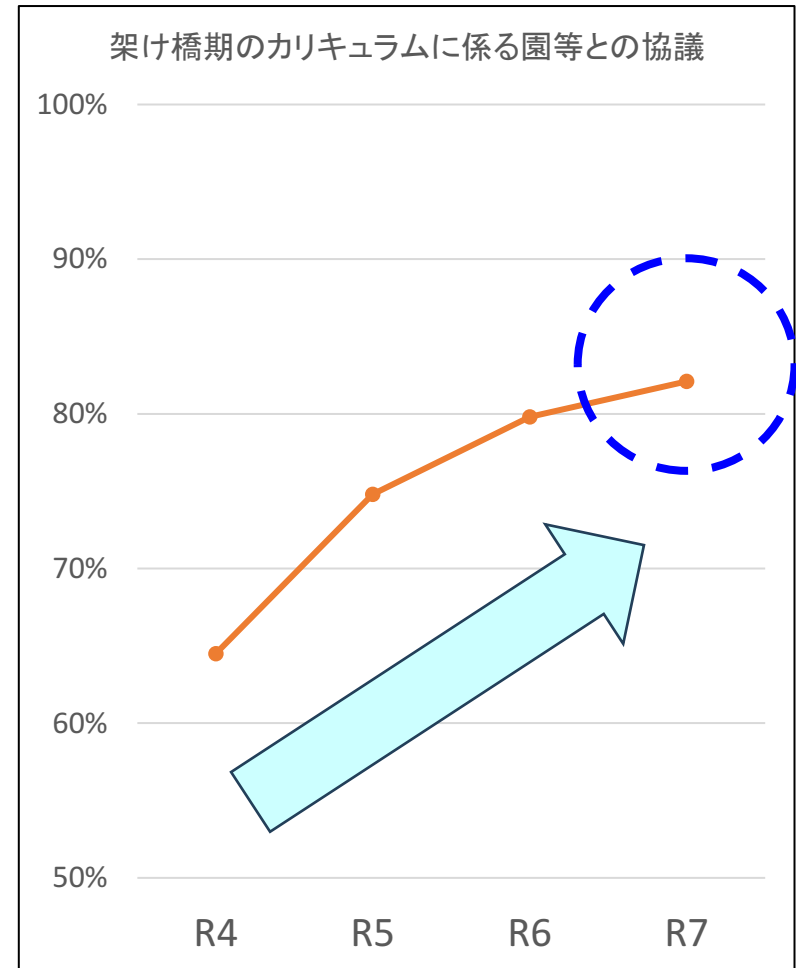
架け橋期のカリキュラムに係る 園等との協議の実施

	R4	R5	R6	R7
県全体	64.5%	74.8%	79.8%	82.1%

学校教育実施状況調査(小学校)

共通の視点での
話し合いの充実

子どもの育ち(姿)
をもとに対話



架け橋期のカリキュラムへの発展

幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、架け橋期に育成をめざす資質・能力を視野に入れながら、**地域の幼児教育と小学校教育の関係者が協働して**、架け橋期のカリキュラムの策定に努めます。

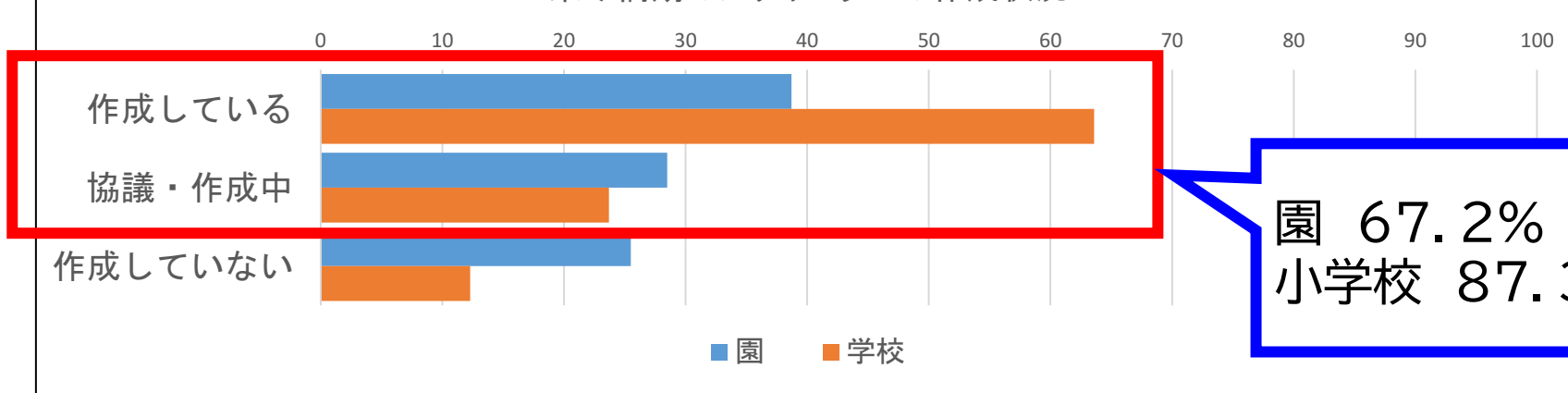


子どもたちの学びの連続性を図るために、子どもの姿の共有からさらに「**対話**」を深めることで、各自が自らの指導方法や指導内容を見直し、そのことを「架け橋期のカリキュラム」で可視化していきます。

2 鳥取県の幼保小連携・接続の現状及び方向性

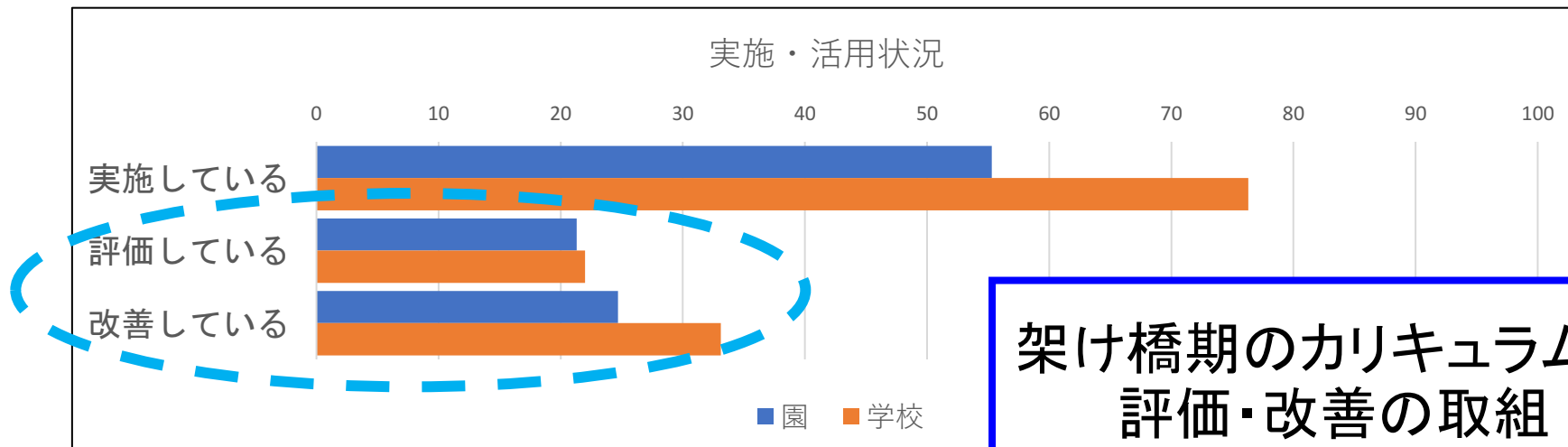
架け橋期のカリキュラムの作成・実施等

架け橋期のカリキュラムの作成状況



園 67.2%
小学校 87.3%

実施・活用状況



架け橋期のカリキュラムの
評価・改善の取組

鳥取県架け橋期のカリキュラムの検討・開発のポイント

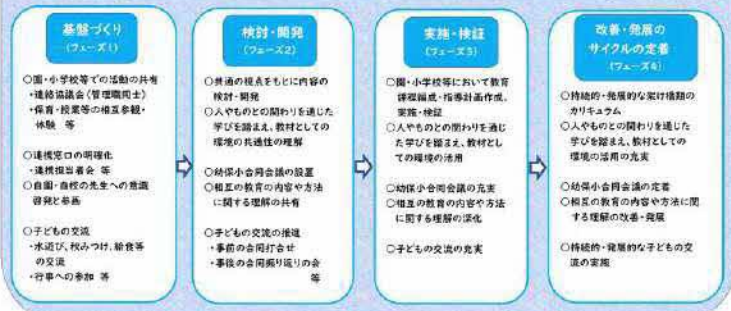
育ちと学びをつなぐ 幼保小の連携・接続
～鳥取県架け橋期のカリキュラムの検討・開発のポイント～

令和5年6月

1 「架け橋期のカリキュラム」の進め方を確かめよう！



園・小学校等での具体化の進め方(各フェーズ)のイメージ

※手引きP.15, 34, 45
※鳥取県幼保小連携ハンドブック「育ちと学びをつなぐ」P.9～14 参照

2 「架け橋期のカリキュラム」を進める過程で大切にしたいことを共通理解しよう！

子どもの育ち(姿)を中心に**対話**しよう！

語ろう！子どもたちのこと

実際の子どもたちの様子と一緒に見る機会をもちましょう。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点を語り合います。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期において育みたい資質・能力が育まれている具体的な姿です。

相談しよう！期待する子ども像(めざす子ども像)

市町村・校区でどんな子どもを育てたいかという話を語り合い、定めます。この姿をめざして園・小学校等でそれぞれの取組を考えます。

知ろう！園のこと・学校のこと

それぞれに尊重すべき違いがあります。一方が他方に合わせるというものではありません。互いの教育内容・大切にしている指導や支援を知ることが大切です。

つなげよう！育みたい資質・能力

園と小学校等が共通の視点について話し合うことで、指導内容や指導・支援が、具体的かつ系統的につながります。

連続性・一貫性のあるカリキュラムに 園と小学校等でともに 互いに学び合い、カリキュラム・教育方法の改善を進めていきます。



3 「架け橋期のカリキュラム」を検討・開発していこう！

①ここからスタート！

「期待する子ども像(めざす子ども像)」を園と小学校等で共有しよう。

②園と小学校等が共通の視点で話し合い、互いに理解し合おう。

③話し合ったことを「架け橋期のカリキュラム」として可視化しよう。



5歳児												小学校1年生												
共通の視点として 考えられる項目(例)	月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期待する子ども像 (めざす子ども像)	架け橋期の2年間を通して、どのような子どもを育てたいか。※手引きP.24,25 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりにし、保育や学習、生活の場から具体的な子どもの姿をあげて話し合う。																							
育みたい資質・能力	期待する子ども像をどのような「育みたい資質・能力」で捉えるのか。 期待する子ども像を具体的な子どもの姿であげ、「育みたい資質・能力」で整理する。																							
遊びや学びの プロセス	期待する子ども像の育成に向けて、子どもの姿や発達を踏まえ、遊びや学びのプロセスをどのように深めていくのか。※手引きP.26,36～38 期待する子ども像に近づく具体的な事例を出し合い語り合うことで、お互いの「遊びや学びのプロセス」について理解し、教育・保育方法について見直す。																							
園で展開される活動 / 小学校の生活科等 を中心とした各教科等の 単元構成等	期待する子ども像の育成に向けて、園の活動と小学校の各教科等の教育内容や活動をどのようにつなげていくか。※手引きP.27,28,39～42 園・小学校等 ：小学校以降の生活や学習を見通した幼児教育の工夫 ：園での遊びや生活を踏まえた小学校教育の工夫 スタートカリキュラムによる生活科を中心とした各教科等の含め、関連的な指導の工夫 園と小学校等：共に充実をめざす活動や体験の共有																							
指導上の 配慮事項	先生の関わり方	子ども同士の考えをつなぐ、子どもとともに創造する、多様な子ども一人一人の可能性や活躍の場を引き出す集団づくり、といった視点は共通していることを踏まえ、各施設段階での先生の関わりや役割について捉える。※手引きP.43,44																						
	環境の構成・ 環境づくり	遊びや学びのプロセスを深めるため、先生の関わり、環境の構成や環境づくりとしてどのような工夫があるか。※手引きP.29																						
		子どもにとっての教育的価値の観点から、その共通性の理解を深め、教材としての環境づくりを考える。※手引きP.45,46																						
子どもの交流		交流を通じた学びを深めるため、各園・小学校の年間の活動に、子ども同士の交流などをどのように位置付けるのか。※手引きP.30 年間計画に子ども同士の交流を位置付け、交流する対象の年齢・学年、交流時期、交流のねらい等を共通理解する。																						
職員の交流		園と小学校等の先生同士の交流(連絡協議会・合同研修会・交流の振り返りの会等)を年間計画に位置付け、子どもの育ちを共有する。																						
家庭や地域との 連携		期待する子ども像について家庭や地域と共有し、どのように連携協働していくのか。※手引きP.30																						
評価		園と小学校等の先生が実践と一緒に振り返り、評価する。																						

○「架け橋期のカリキュラム」は、幼保小の先生が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れたから策定できるように工夫しましょう。※手引きP.21

※手引き…幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版) 参照
(令和4年3月31日 文部科学省)



詳しくは、文部科学省のホームページへ！
幼保小の架け橋プログラム 検索



幼保小の協働による架け橋期の教育の充実

幼保小の継続的な対話の中で、教育活動を評価し、それぞれの教育を充実するよう努めます。

架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラム及び5歳児年間指導計画の位置付けを見直し、教育方法の充実・改善をしていきましょう。



2 鳥取県の幼保小連携・接続の現状及び方向性

教育を
つなぐ

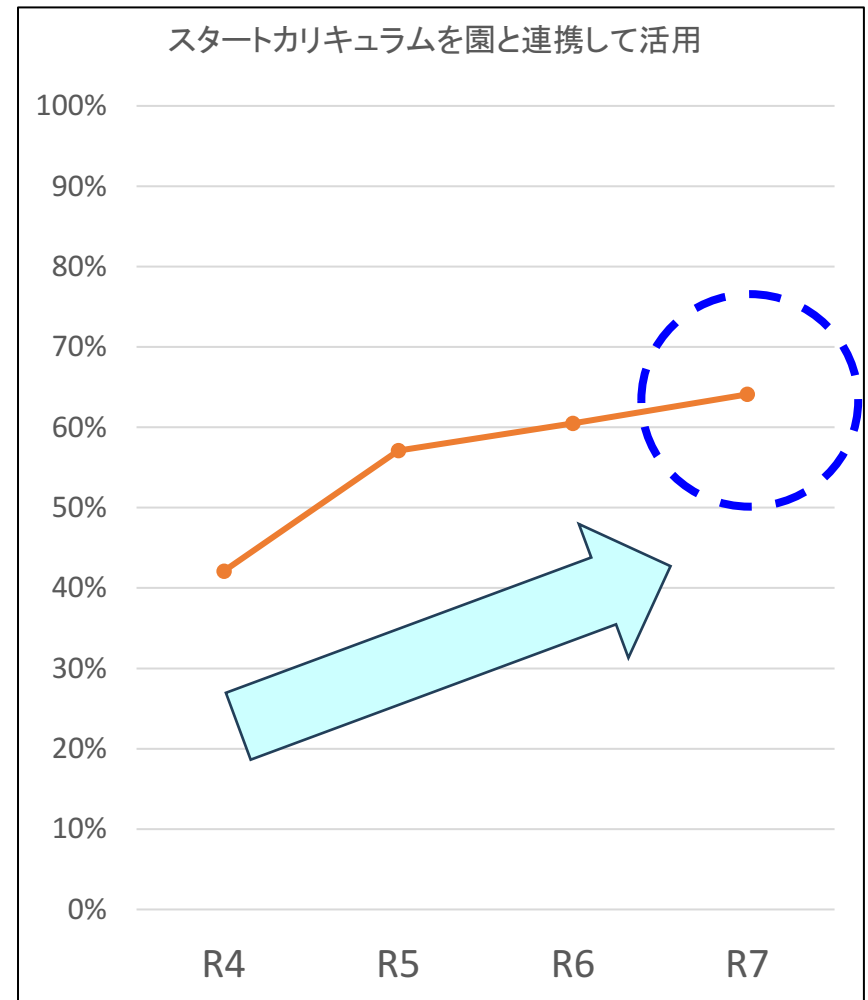
スタートカリキュラムを園と連携して活用

	R4	R5	R6	R7
県全体	42.1%	57.1%	60.5%	64.1%

学校教育実施状況調査(小学校)

スタートカリキュラム等の
見直しと改善

教育方法の
充実・改善



2 鳥取県の幼保小連携・接続の現状及び方向性

連携・接続したことによる成果（成果があったと感じている項目すべてに○）

		%
	全園	小学校等
小学校等入学に向けて、自信をもって主体的に遊びや生活に取り組む姿が見られた 小学校等入学後、児童が地自信や意欲をもって主体的に活動し、自己発揮する姿が見られた	65.1	74.6
教職員が小学校等の教育内容を理解し、学びの連続性や視点を明確にした保育実践、保育の充実・改善に生かすことができた 教職員が園で行われている幼児教育について理解し、幼児期の育ちを踏まえた学習活動や授業改善に生かすことができた	42.1	73.3
特別な配慮を必要とする幼児に対する支援をつなぐことができた	73.6	89.8
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、子どもの育ちを共有し、幼児期に育んだ資質・能力を小学校等に伝えることができた 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、子どもの育ちを共有し、幼児期に育んだ資質・能力が発揮できるよう務めた	57.4	63.6
校区等の小学校等とのつながりがさらにもてるよう、5歳児年間指導計画等を改善した 校区等の園とのつながりがさらにもてるよう、スタートカリキュラムを改善した	17.9	50
保護者や地域に子どもの育ちや学びのつながり、連携・接続の様子を発信することができた 保護者や地域に子どもの育ちや学とのつながり、連携・接続の様子を発信することができた	46.8	41.5

令和7年度 学校教育実施状況調査、鳥取県幼児教育調査

		%
	全園	小学校等
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、子どもの育ちを共有し、学びをつなぐことができた	33.8	28.1

令和3年度 鳥取県幼児教育調査

2 鳥取県の幼保小連携・接続の現状及び方向性

組織をつなぐ

子どもに関わる全ての関係者が、子どもの姿を中心に対話しながら、**架け橋期（5歳児から小学校1年生の2年間）の教育を充実**させる持続可能な連携の体制づくりを行っていきます。

- 管理職同士のつながり（連絡協議会等）
- 連携推進担当者同士のつながり（連絡会等）
- 架け橋期の子どもの育ちについての引継ぎ
- 園、学校、学級だより等の送付・掲示等

人をつなぐ

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子どもの育ち（姿）を語り合ったり、互いの教育内容や指導方法の理解を深められたりするように、幼稚園・認定こども園・保育所・小学校等の教職員等の連携・交流を充実させていきます。

- 子ども同士の交流
 - ・互いのねらいを明確にした交流
- 教職員等の相互理解
 - ・保育参観・授業参観
 - ・保育体験・授業補助体験等

教育をつなぐ

幼児期から児童期の発達を見通しつつ、架け橋期に育成をめざす資質・能力を視野に入れながら、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が協働して、「架け橋期のカリキュラム」を策定していきます。

- 期待する子ども像（めざす子ども像）についての協議
- 共通の視点での話し合い・相互理解
- 架け橋期のカリキュラムの編成・実践・評価・改善

p. 56

連携

接続

2 鳥取県の幼保小連携・接続の現状及び方向性

幼保小連携・接続のためのポイント

各園、小学校等においてこれまで取り組んできた内容を生かしながら、さらなる架け橋期（※1）の教育の充実を図るためには、どのような取組を意識していくとよいのかを確認しましょう。

子どもの育ちと学びをつなぐために

組織をつなぐ
人をつなぐ
教育をつなぐ

3つの「つなぐ」をキーワードに、項目をチェックし、取組の参考にしましょう。

（1）組織をつなぐ

★管理職同士のつながり（連絡協議会等）

- ☐ 定期的な連絡協議会（※2）の開催
- ☐ 市町村・設置者主催研修会への参加
- ☐ 連携推進担当者会（連絡会（※3））の設置と支援
- ☐ 日常的で気軽な連絡・訪問
- ☐ 子どもの様子を観察する機会の設定
- ☐ 年間連携計画の作成・評価

★架け橋期の子どもの育ちについての引継ぎ

- ☐ 架け橋期の全ての子どもたちの様子や育ちに係る参観・情報交換
- ☐ 特別な配慮を必要とする子どもたちの様子や育ちに係る参観・情報交換
- ☐ 定期的な引継ぎ会の開催

【市町村・設置者】

- ☐ 各市町村における幼保小の担当部署の連携・協働の体制づくり
- ☐ 連絡協議会等の設置と支援
- ☐ 幼保小合同研修会の開催
- ☐ 幼保小連携に取り組む園・小学校等の支援

★連携推進担当者同士のつながり（連絡会等）

- ☐ 連携推進担当者の位置付け
- ☐ 連携推進担当者による取組等の情報発信
- ☐ 校区等の連絡会の実施
- ☐ 年間連携（交流）計画の作成・活用
- ☐ 各園・校区等の全教職員の積極的な参画のための情報発信

★園、学校、学級だより等の送付・掲示等

- ☐ 校区内の園、小学校等への送付
- ☐ 連携・交流の内容を記載した園、学校、学級だより等の作成
- ☐ 幼保小接続に関する掲示コーナー等の工夫
- ☐ 園内・校内の教職員への回覧
- ☐ 保護者・地域への情報発信

（2）人をつなぐ

★子ども同士の交流

- ☐ 園・学校行事の参加、体験活動、施設利用、休憩等を活用した遊びの機会の確保
- ☐ 計画的、継続的な子ども同士の交流
- ☐ 互いのねらいを明確にした子ども同士の交流
- ☐ 架け橋期の子ども同士の交流（生活科との関連）
- ☐ 園児が小学校等への期待や見通しをもてる活動の工夫（体験入学・オープンスクールなど）
- ☐ 校区等の園児同士の交流

★教職員等の相互理解

- ☐ 保育参観・授業参観の実施
- ☐ 保育参観・授業参観とその後の協議の充実
- ☐ 保育体験・授業補助体験の実施
- ☐ 交流等における事前・事後の打合せ
- ☐ 園と小学校等が協働して交流実施計画等を作成
- ☐ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりにした対話

（3）教育をつなぐ

★期待する子ども像（めざす子ども像）についての協議

- ☐ 校区等の架け橋期の子どもの実態把握
- ☐ 校区等の架け橋期の期待する子ども像の協議・共有
- ☐ 架け橋期のカリキュラムへの明記

★共通の視点での話し合い・相互理解

- ☐ 参観・交流活動等を通じた共通の視点についての話し合い
- ☐ 共通の視点で話し合ったことをカリキュラムで可視化
- ☐ 小学校以降の生活や学習を見通した5歳児年間指導計画の見直しと改善
- ☐ 園での遊びや生活を踏まえたスタートカリキュラム等の見直しと改善
- ☐ 相互理解をもとにした、自園・自校の教育内容や方法の改善
- ☐ 架け橋期のカリキュラムの評価・改善

架け橋期のカリキュラムを編成して
子どもの育ちと学びをつないでいきましょう。

【市町村・設置者】

- ☐ 架け橋期のカリキュラム開発会議（※4）の設置と運営
- ☐ 架け橋期のカリキュラム作成の支援・コーディネート

※4 架け橋期のカリキュラム開発会議・・・各地域において、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校等、教育委員会、保育担当課、教員等の養成や研修（管理職を含む）に関わる大学や専門学校、幼保小の関係団体、保護者や地域の関係者、有識者等から構成される。（開発会議は、自治体に設置）

p. 97、98



共通の視点（例）

- ・育みたい資質・能力
- ・遊びや学びのプロセス
- ・園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等
- ・指導上の配慮事項（先生の関わり、環境の構成・環境づくり）等

【参考】「鳥取県架け橋期のカリキュラムの検討・開発のポイント」



- ※1 架け橋期・・・5歳児から小学校1年生の2年間
 ※2 連絡協議会・・・主に小学校区内の園及び小学校等の管理職等が、自園及び自校の子どもたちの様子や連携・接続の取組の方向性について協議する会
 ※3 連絡会・・・主に年長担任や1年担任といった架け橋期の子どもに関わる者や幼保小連携・接続を推進する立場にある者等が、自園及び自校の子どもたちの様子や連携・接続の取組の実践について協議する会

3 鳥取県の幼保小連携・接続の今後に向けて

連絡協議会の
充実と定着

管理職の
リーダーシップ

事前・事後の
協議の充実

教職員等の
相互理解



共通の視点での
話し合いの充実

子どもの育ち(姿)
をもとに対話

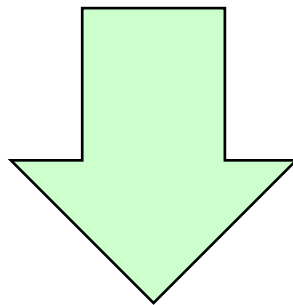
架け橋期のカリキュラムの
評価・改善の取組

スタートカリキュラム等の
見直しと改善

教育方法の
充実・改善



幼児教育と小学校教育をつなぐ



すべての子どもに
学びや生活の基盤を育めるように

園全体・学校全体の取組に
していきましょう。

